

芸術科 書道 学習指導案

単元名	仮名の書		
単元の目標	知識や技能を得たり生かしたりしながら、古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成及び意図に基づいた表現について構想し工夫すること。用具・用材の特徴と表現効果との関わり及び線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解すること。古典に基づく基本的な用筆・運筆及び連綿と単体、線質や字形を生かした表現の技能を身につけていること。		
具体的な評価基準			
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
用具・用材の特徴と表現効果との関わり及び線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解すること。古典に基づく基本的な用筆・運筆及び連綿と単体、線質や字形を生かした表現の技能を身につけていること。	知識や技能を得たり生かしたりしながら、古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成及び意図に基づいた表現について構想し工夫すること。	主体的に知識・技能を理解し、臨書により表現の技能を身につけており、それを生かしながら表現をしようとしている。また、積極的に話し合いに参加し、自己表現しようとしている。	
単元計画			
次	時	評価基準と評価方法	学習活動
一	1 2	【評価基準】 仮名の成立と種類、基本的な筆使いや古典を理解している。(知識・技能) 学習プリント (壱) 用具用材を正しく使い、いろは歌を臨書している。(知識・技能) 【評価方法】 行動の観察・記述の確認	仮名の成立と種類や、基本的な知識・技能を習得するため、いろは歌で基本的な筆使いや連綿を習得する。磨墨をする。 用具用材の正しい使い方を知り、いろは歌を臨書し、用筆・運筆法を確認する。
二	3 4	【評価基準】 蓬萊切に興味関心を持ち、鑑賞において自分の意見を表現しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度) また、連綿や変体仮名、料紙について理解している(知識・技能) 用筆・運筆法を確認しながら蓬萊切を臨書している。知識・技能) 学習プリント (弐) 【評価方法】 行動の確認・記述の確認	蓬萊切を鑑賞し、連綿や変体仮名、料紙についても学ぶ。グループ活動を通じて蓬萊切の特徴を考え意見を出し合う。意味や読みを理解したり、臨書により穏やかでおおらかな書風を捉え、緩やかに運筆する。
三	5 6	【評価基準】 様々な古典の鑑賞や紙面構成について協同的に話し合いながら理解しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度) 紙面構成の学びを生かして構成を考え臨書を工夫している(思考・判断・表現) 学習プリント (参) 【評価方法】 行動の確認・記述の確認	様々な古典の鑑賞および紙面構成について、散らし書きや行書きとその効果を理解する。紙面形式を選び、構成を考え、(ICT 機器タブレット活用) 蓬萊切の用筆や運筆を生かして、それぞれの紙面形式に臨書する。グループで途中経過を発表し協同的に学ぶ。

四	<p>7 【評価基準】 仮名に興味関心を持ち、お互いに</p> <p>8 自分の考えを発言しながら協同的に学び（主体的に学習に取り組む態度）、学習した内容を生かそうと紙面構成をさらに深めることができるか（思考力・判断力・表現力）</p> <p>学習プリント（四）</p> <p>臨書披露により、意図に基づく筆遣いや完成作品であるか確認する。（思考・判断・表現）</p> <p>【評価方法】 行動の確認・記述の確認</p>	<p>表現のイメージに合わせて選んだ紙面形式（扇面・色紙・懐紙）の、構成を工夫することができる。グループでそれぞれの構成の意図を発言したりして、より良い構成を考え意見を出し合う。</p> <p>グループ臨書発表会をする。料紙に清書する。</p>
---	--	--

1 5 16
2 11 19

3

